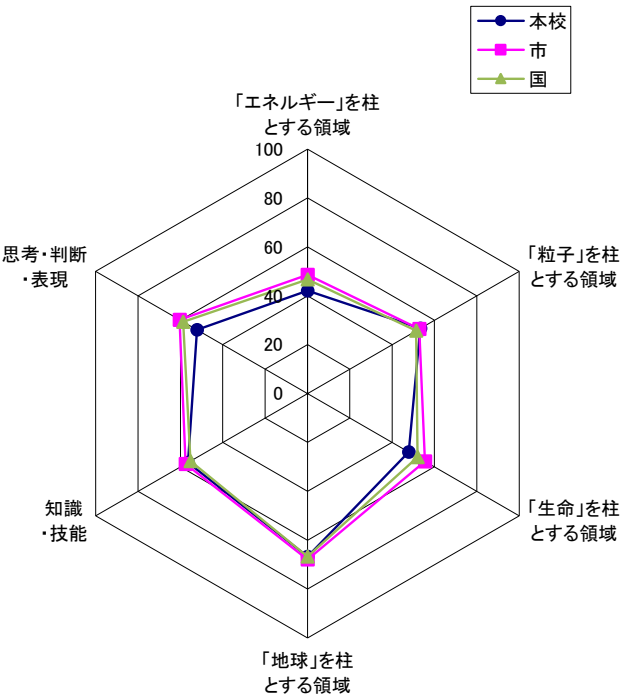


宇都宮市立東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	42.1	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	53.3	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	47.9	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	66.7	67.9	66.7
観点	知識・技能	56.4	57.5	55.3
	思考・判断・表現	52.1	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は42.1%であり、全国の平均を4.6ポイント下回っている。 ○身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が14.3%で全国平均を3.7ポイント上回っている。 ●電流がつくる磁石について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題では、正答率が65.7%で全国平均を12.3ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・コイルの巻き数を増やす、電流を強くするなどの操作が、磁力にどのような変化をもたらすのかを繰り返し実験し、体感を通して理解できるようにする。 ・アニメーションやシミュレーションツールなど、電磁石の仕組みや磁界の変化を視覚的に理解できる教材を活用し、抽象的な概念を具体的にイメージできるように支援する。 ・日常生活や身の回りの現象と結びつけて説明することで、興味関心を引き出し、電気や回路、電磁石の仕組みについての理解を深めることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は53.3%であり、全国の平均をやや上回っている。 ○水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題では、正答率が71.4%で全国平均を13.9ポイント上回っている。 ●水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題では、51.4%で全国平均を8.4ポイント下回っている。	・「どんな疑問が生まれたか?」「何を調べてみたいか?」といった具体的な問いかけを通じて、児童自身が「新たな問題」を設定できる場面を設ける。 ・与えられた課題に対して、どのような実験をすれば解決できるのか、児童に具体的な実験計画を考えさせ、検証できるような指導を積み重ねていく。 ・見いだした問題や考察を、発表やグループディスカッションなど、自分の言葉で表現する活動を取り入れる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は47.9%であり、全国の平均を4.1ポイント下回っている。 ○発芽するために必要な必要条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が68.6%で全国平均を6.6ポイント上回っている。 ●種子の発芽条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が11.4%で全国平均を18.5ポイント下回っている。	・種子の発芽条件に関する実験結果の違いや共通点に着目し、そこから新たな課題を見出す力を育てるために、観察や記録を丁寧に行う活動を充実させるとともに、結果の分析や考察を深める時間を確保する。 ・「なぜそうなるのか」「もし○○だったらどうなるか」といった思考を促す問いかけを日常の授業に取り入れ、科学的に考える力や表現する力を伸ばす指導を工夫して行う。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は66.7%であり、全国の平均と同程度である。 ●土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、土の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題では、正答率が65.7%で全国平均を13.8ポイント下回っている。	・「条件制御」の原理について、再確認する。 ・実際に土を採取し、粒の大きさ、色、湿り具合などを観察し、結果を整理して記録する活動を取り入れる。 ・問題解決型の学習を取り入れ、「なぜそうなるのか」という因果関係の追求を行うことができるように指導していく。